



## レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 5 回研修会・交流会



報告者：DLBSN福岡副代表坂梨左織

初雪が降った 2016 年 12 月 15 日（木）BiVi 福岡 で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第 5 回研修会・交流会を開催しました。

まず、副代表の坂梨より、先月横浜と東京で行われた「レビー小体型認知症サポートネットワーク全国交流会」と「レビーフォーラム 2016」の報告を行いました。全国交流会の報告では、神奈川エリアの活動内容について紹介しました。また、レビーフォーラム 2016 の中から、栗岡紀世美さんの魅力溢れる講演内容を紹介しました。これらの参加を通して、改めてご家族や専門職がレビー小体型認知症やその介護について、多くの知識や情報を身につけていくことが大切だと実感しました。

次に、ご家族、ケア専門職を交えて、各グループの参加者の事例を取り上げてディスカッションを行いました。その一部をご紹介します。

### グループディスカッション内容

- ・サービス利用中はケアができているが、家ではうまくできない。  
→サービスではどのようにうまくいっているかわかると、家でも生かせるのではないか。専門職に、家でどのように困っているか具体的に伝えることができれば、良い情報が得られる。専門職は日頃の様子から判断しているので、介護のポイントを知ることで、在宅で生かすことができる。
- ・日々症状が違って、転倒や骨折を繰り返している。本人のプライドもあってデイサービスに行きたがらない。どのように介護サービスを使えばよいか。  
→短時間のデイサービスやリハビリを活用してはどうか。
- ・体調によって、家族を認識できないことがある。  
→否定をしないことが大事である。

・嫉妬妄想がある。受診はまだしていない。

→受診を勧める。薬の使用も考慮したがよい。

・今年、レビー小体型認知症と診断を受けたが、本人もご家族も本当にそうか疑問を持っている。納得するためにも、もう一度診断を受けたい。

→これまで受診した病院でも良いし、市には認知症疾患医療センターもあるので受診してはどうか。

続けて顧問医である坪井先生から、抗不安薬はせん妄を引き起こしやすく、薬の選択に注意をするようアドバイスがありました。そして、レビー小体型認知症とは何か、その診断までをわかりやすく講義形式で説明されました。

最後に、下村代表より、ご家族が発せられた「病院や施設の人たちに関心をもってもらえない」という苦悩をしっかり受け止め、理解していくことの必要性を強調されて会は終了しました。



次回の研修会・交流会は2017年3月16日（木）18時～です。

